私とお米

諫早市立長田中学校　一年　柴田　夏実

私の祖父は兼業農家であり、私は中学生ながらも祖父の農作業を手伝うことが多いです。祖父の田んぼは、私たち家族にとって大切な場所であり、私にとっても特別な思い出が詰まっています。春になると、田んぼに水を引き入れる作業が始まります。祖父は早朝から起きて、田んぼの水路を確認し、水の流れを調整します。私はその手伝いをするために、祖父と一緒に田んぼに出かけます。冷たい水が足元を流れる感覚は、毎年新鮮で、春の訪れを感じさせてくれます。祖父は「水の管理が一番大事なんだ」といつも言います。その言葉を聞くたびに、農業の奥深さを感じます。田植えの時期になると、家族総出で苗を植えます。祖父は苗を一つ一つ丁寧に植えていきますが、私はまだ不器用で、祖父に教わりながら作業を進めます。泥だらけになりながらも、苗が整然と並ぶ様子をみると、達成感と

喜びを感じます。祖父は「苗がし」かり根付けば、秋には豊作になる」と笑顔で言います。その笑顔を見ると、私も頑張ろうという気持ちになります。夏になると、田んぼの草取りや害虫駆除の作業が待っています。暑い日差しの中での作業は大変ですが、祖父と一緒に汗を流しながら働くことで、家族の絆が深まります。祖父は「自然と向き合うことが大切だ」と教えてくれます。その言葉を胸に、私は一生懸命に作業を続けます。秋になると、いよいよ稲刈りの季節がやってきます。黄金色に輝く稲穂を見ていると、一年の努力が実を結んだことを実感します。稲刈も家族総出で行われ、収穫したお米を乾燥させる作業も一緒に行います。乾燥させたお米は、精米して家庭で食べるだけでなく、知り合いや地域の方にあげることもあります。祖父は「お米はみんなの命を支える大切なもの」だと言います。その言葉をきくたびに、私もお米作りの重要性を感じます。

20 × 20

お米は私たちの食卓に欠かせない存在です。朝ごはんには炊きたてのご飯とみそしる、昼ごはんにはおにぎり、晩ごはんには様々なおかずと一緒にいただきます。特に母の作るおにぎりが好きで、遠足や運動会のときなどには必ずもっていきます。おにぎりを食べると家族の温かさと、田んぼでお米をつくった記憶を思いだします。また、お米は地域の文化や伝統とも深く結びついています。地域の人たちとするもちつきは、みんなで協力することを学びそして特別なもちを食べることができます。こうした行事を通じて、お米が地域の絆を深める役割を果たしていることがわかります。

現代では、食生活の多様が進み、お米の消費量が減少していると言われています。しかし、私はお米のもつ豊かな味わいや栄養価、そして何よりも家族や地域のつながりを大切にしたいと思います。お米作りを通じて得た経験や知識を次の世代に伝え、未来につなげ

20 × 20

ていくことが私は大事だと思います。お米は単なる食べ物ではなく、私たちの生活や文化そして心の中に深く根付いている存在です。これからもお米大切にし、その価値を広めていきたいとねがっています。

20 × 20